

抗議声明

あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」出品作家

大浦信行

あいちトリエンナーレ2019実行委員会会長の大村秀章知事と津田大介芸術監督が「表現の不自由展・その後」を、8月3日をもって展示中止と発表したことに對して、出品作家の一人として、強い憤りをもって抗議します。

また、津田芸術監督から、出品作家への事前の説明が無いまま突然中止に至った事は、当の作家が「蚊帳の外」に置かれたまま事態が進んでいったことであり、到底納得出来ません。

いくら政治的介入や脅迫があったとは云え、開催後僅か三日で中止されてしまうということは、「表現の自由」をないがしろにするものであり、そこに深い議論がなされたとは思えない。

本来表現は、現実の事象を作家の想像力を発揮して咀嚼し、現実の外へと遠く飛翔し、そこで解体され、組み直されて、新たな意匠をまとって再びこの現実に戻ってくる。それが表現と云うものだ。だから表現は現実そのものの再現ではあり得ない。

しかし、公権力は、この現実の事象としてしか表現を捉えない。そこに検閲が生まれてくる。

「表現の不自由展・その後」は、その現実との齟齬を、今一度、作家の重みと内面に寄り添って、検証するという用かれた場であった。

貴重なその場が突然展示中止にされた今、創作者と金鑑賞者が意見を疎通する場としての「表現の不自由展・その後」の即事開催を強く要望します。

そして、主催者と作家による議論の場を設けることも合わせて要求します。

2019年8月7日